

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2602		
科目名	危機管理基礎演習Ⅱ		
担当教員	木村 敦		
対象学年	2年	開講学期	後期
曜日・時限			
講義室		単位区分	必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H[論理的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F[探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K[表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連 E1学識と専門技能 40% F1探求と論拠 10% H1論理的思考 20% H2批判的思考 10% I1理解・分析と読解 10% K1ライティングコミュニケーション 10%		
教員の実務経験	特にありません。		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期～3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導します。3年次以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもちます。本科目では、ヒューマンエラーの要因となりやすい知覚・認知心理学的特性、および社会・環境心理学的特性についての定量的計測を心理学実験の手続きにて実施し、そのデータ処理や統計解析、レポート執筆を行います。 ■キーワード 心理学実験、危機管理、レポート作成、ディスカッション。ゼミナールへの橋渡し ※授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。		

授業の趣旨	■副題 心理学基礎実験を通じた事実を報告する技能の修得 ■授業の目的 人文・社会科学のアプローチから危機管理を研究する上で、人間の心理・行動を客観的に測定するための知識や技能を心理学研究法から学んでいきます。3つの基礎的な心理学実験を通じて、実験材料の作成、データ整理、統計的検定、レポート作成といった基礎的なリサーチスキルを修得します。 ■授業のポイント この授業では、心理学実験の実施と分析、レポート作成の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行います。また、基礎的な実験の体験を通じて現実の危機管理におけるヒューマンファクターの研究計画を考察するなかで、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。						
総合到達目標	■一般目標（GIO） 人間を対象とした実験を科学的・倫理的に適切な方法で遂行し、そのデータを適切に処理して統計的に解析し、的確なレポートを作成できる。 ■個別行動目標（SBOs） ・人間を対象とした実験を実験計画と研究倫理に基づいて遂行することができる。（第2～13回） ・実験計画に基づく統計解析の選定とExcelを用いた計算ができる。（第4、8、12、14回） ・実施した事実に基づいて社会科学のレポートを作成することができる。（第5、9、13、15回）						
成績評価方法	■レポート3回（60%）：適用ルーブリック E1・F1・H1・H2・I1・K2 （評価の観点）事実に基づいて再現可能な方法と結果の記述がなされているかや、統計解析に基づく客観的な考察がなされているかを中心に評価します。 （フィードバック方法）授業内で個別にフィードバックします。 ■授業参加度（30%）：適用ルーブリック E1・F1・H1 （評価の観点）社会科学データを取得する実験者として妥当な振舞いができているかや、グループでの実験準備、また分析やレポート作成に主体的に参加できているかを中心に評価します。 （フィードバック方法）授業内で全体あるいは個別にフィードバックします。 ■統計解析小テスト1回（10%）：適用ルーブリック E1・I1・K2 （評価の観点）実験計画とデータをみて、妥当な統計解析を選択して分析をExcelを用いて実施できるスキルが身についているかを評価します。 （フィードバック方法）授業のその場で、フィードバックします。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点	演習形式の授業ですので、積極的に議論に参加して下さい。						
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の説明、グループ分け) ②授業概要 授業のテーマ内容、スケジュール、成績評価について確認した後、自己紹介し、グループ分けをすることで、コミュニケーションに重要な言葉選びができるようになる(K2)。 ③予習（120分） 教科書を通読し、心理学実験の基本的な流れを把握する。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ルーブリックのコンピテンシーを概観する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ 実験1「錯視量の測定」1 ②概要 実験の準備(背景と目的の理解、実験計画の確認、実験器具の準備、教示文の作成、記録用紙の準備)ができるようになる。（E1,F1,K2） ③予習（120分） 教科書第3章を精読する。 ④復習（120分） グループ内で各自の教示文案を確認し合い、よりわかりやすい説明文に仕上げる。 </td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の説明、グループ分け) ②授業概要 授業のテーマ内容、スケジュール、成績評価について確認した後、自己紹介し、グループ分けをすることで、コミュニケーションに重要な言葉選びができるようになる(K2)。 ③予習（120分） 教科書を通読し、心理学実験の基本的な流れを把握する。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ルーブリックのコンピテンシーを概観する。	2	①授業テーマ 実験1「錯視量の測定」1 ②概要 実験の準備(背景と目的の理解、実験計画の確認、実験器具の準備、教示文の作成、記録用紙の準備)ができるようになる。（E1,F1,K2） ③予習（120分） 教科書第3章を精読する。 ④復習（120分） グループ内で各自の教示文案を確認し合い、よりわかりやすい説明文に仕上げる。
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の説明、グループ分け) ②授業概要 授業のテーマ内容、スケジュール、成績評価について確認した後、自己紹介し、グループ分けをすることで、コミュニケーションに重要な言葉選びができるようになる(K2)。 ③予習（120分） 教科書を通読し、心理学実験の基本的な流れを把握する。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ルーブリックのコンピテンシーを概観する。						
2	①授業テーマ 実験1「錯視量の測定」1 ②概要 実験の準備(背景と目的の理解、実験計画の確認、実験器具の準備、教示文の作成、記録用紙の準備)ができるようになる。（E1,F1,K2） ③予習（120分） 教科書第3章を精読する。 ④復習（120分） グループ内で各自の教示文案を確認し合い、よりわかりやすい説明文に仕上げる。						

3	①授業テーマ 実験1「錯視量の測定」2 ②概要 自分で準備した実験器具等を用いて実験の遂行と記録ができるようになる。 (E1,K2) ③予習 (120分) 実験のリハーサルを行ってくる。 ④復習 (120分) 実際に実験を実施してみて教示文や手順に改善点があるかどうかをグループ内で議論して記録する。"
4	①授業テーマ 実験1「錯視量の測定」3 ②概要 クラスのデータをExcelで集計し、集計表やグラフを作成できるようになる。また、適切な統計的検定を関数式を用いて行い、その結果を解釈できるようになる。 (E1,F1,H1,H2,I1,K2) ③予習 (120分) Excelのグラフ作成機能や関数式を用いた計算を練習してくる。 ④復習 (120分) 復習用データを用いて統計解析を行い、その結果をグループ内で確認する。
5	①授業テーマ 実験1「錯視量の測定」4 ②概要 実験1についてレポートを執筆できるようになる。とくに自分たちが実施した事実に基づいて方法や結果を客観的に記述するとともに、統計解析の結果に基づいて妥当な考察を行えるようになる。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習 (120分) 授業で配布されたレポートのテンプレートを一読するとともに、実験手順や統計解析に関する記録を整理してくる。 ④復習 (120分) 授業での説明や個別の講評を踏まえて、レポートを再度推敲する。
6	①授業テーマ 実験2「ストループ効果」1 ②概要 実験の準備(背景と目的の理解、実験計画の確認、実験器具の準備、教示文の作成、記録用紙の準備)ができるようになる。(E1,F1,K2) ③予習 (120分) 教科書第6章を精読する。 ④復習 (120分) グループ内で各自の教示文案を確認し合い、よりわかりやすい説明文に仕上げる。
7	①授業テーマ 実験2「ストループ効果」2 ②概要 自分で準備した実験器具等を用いて実験の遂行と記録ができるようになる。 (E1,K2) ③予習 (120分) 実験のリハーサルを行ってくる。 ④復習 (120分) 実際に実験を実施してみて教示文や手順に改善点があるかどうかをグループ内で議論して記録する。
8	①授業テーマ 実験2「ストループ効果」3 ②概要 クラスのデータをExcelで集計し、集計表やグラフを作成できるようになる。また、適切な統計的検定を関数式を用いて行い、その結果を解釈できるようになる。 (E1,F1,H1,H2,I1,K2) Excelのグラフ作成機能や関数式を用いた計算を練習してくる。 ④復習 (120分) 復習用データを用いて統計解析を行い、その結果をグループ内で確認する。
9	①授業テーマ 実験2「ストループ効果」4 ②概要

	実験2についてレポートを執筆できるようになる。とくに自分たちが実施した事実に基づいて方法や結果を客観的に記述するとともに、統計解析の結果に基づいて妥当な考察を行えるようになる。(E1,F1,H1,H2,I1,K2) ③予習(120分) 授業で配布されたレポートのテンプレートを一読するとともに、実験手順や統計解析に関する記録を整理してくる。 ④復習(120分) 授業での説明や個別の講評を踏まえて、レポートを再度推敲する。
10	①授業テーマ 実験3「パーソナルスペース」1 ②概要 実験の準備(背景と目的の理解、実験計画の確認、実験器具の準備、教示文の作成、記録用紙の準備)ができるようになる。(E1,F1,K2) ③予習(120分) 教科書第6章を精読する。 ④復習(120分) グループ内で各自の教示文案を確認し合い、よりわかりやすい説明文に仕上げる。
11	①授業テーマ 実験3「パーソナルスペース」2 ②概要 自分で準備した実験器具等を用いて実験の遂行と記録ができるようになる。(E1,K2) ③予習(120分) 実験のリハーサルを行ってくる。 ④復習(120分) 実際に実験を実施してみて教示文や手順に改善点があるかどうかをグループ内で議論して記録する。
12	①授業テーマ 実験3「パーソナルスペース」3 ②概要 クラスのデータをExcelで集計し、集計表やグラフを作成できるようになる。また、適切な統計的検定を関数式を用いて行い、その結果を解釈できるようになる。(E1,F1,H1,H2,I1,K1,K2) ③予習(120分) Excelのグラフ作成機能や関数式を用いた計算を練習してくる。 ④復習(120分) 復習用データを用いて統計解析を行い、その結果をグループ内で確認する。
13	①授業テーマ 実験3「パーソナルスペース」4 ②概要 実験3についてレポートを執筆できるようになる。とくに自分たちが実施した事実に基づいて方法や結果を客観的に記述するとともに、統計解析の結果に基づいて妥当な考察を行えるようになる。(E1,F1,H1,H2,I1,K2) ③予習(120分) 授業で配布されたレポートのテンプレートを一読するとともに、実験手順や統計解析に関する記録を整理してくる。 ④復習(120分) 授業での説明や個別の講評を踏まえて、レポートを再度推敲する。
14	①授業テーマ 統計解析に関する小テスト ②概要 実験計画に基づいて適切な統計的検定を選択し、Excelを用いてその検定の実施と妥当な解釈を行えるようになる。(E1,F1,H1,H2,I1,K2) ③予習(120分) 実験1～3の統計解析に関する資料を再度確認するとともに、統計解析に関する参考書を一読する。 ④復習(120分) 実験1～3のレポート作成資料を見直し、小テスト問題のデータについてグラフを作成して統計解析結果とグラフの傾向を照合する。
15	①授業テーマ 総括 ②授業内容

	実験1～3のレポートについての全体・個別フィードバックを通じて、人文・社会科学のレポートにおける事実の報告やデータに基づく客観的な議論の重要性について説明できるようにする。(C1、K2) ③予習(120分) 自身の実験1～3レポートに対する個別フィードバックを読み、自身のレポートの改善点を挙げてくる。 ④復習(120分) 授業での指摘や受講者同士の議論を踏まえて、ゼミナールや特殊研究に向けた自分の課題を書き出す。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2」(RMGT1215・1216)、「危機管理基礎演習Ⅱ」(RMGT2602)、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」(RMGT4601・4602・4603・4604)、「危機管理特殊研究1～4」(RMGT4611・4612・4613・4614)と関連します。とくに、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」への橋渡しの意味をもちます。②講義科目については、「ヒューマンエラー論」(RMGT2307)と関連します。
教科書	■ 巖島行雄・依田麻子・望月正哉編『ポテンシャル心理学実験』(サイエンス社, 2019年)
参考書・参考URL	■ 長谷川桐・鶴沼秀行『テンプレートで学ぶはじめての心理学論文・レポート作成』(東京図書, 2017年) その他授業内で適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■ 連絡先 開講時に告知します。 ■ オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■ 危機管理領域との対応 災害マネジメント25% : パブリックセキュリティ25% : グローバルセキュリティ25% : 情報セキュリティ25% ■ 危機管理学と法学とのバランス 法学10% : 危機管理学90%

